

---

# 鏡

hiro

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鏡

### 【コード】

N3160Y

### 【作者名】

hiro

### 【あらすじ】

鏡に映るわたしが見える

by hiro

(前書き)

掲載詩タイトル一覧

1・M e - r r o r - b y r i n t h

2・タナトスの鏡

3・まねっこさん

4・ひかりのひとみ

以上4編からなる詩集です。

M e - r r o r - b y r i n t h

ピカピカの鏡

フカシギなゲート

キラキラなひとみ

そのトビラ ひらいたら

だれもしらない

ぼくもしらない

『ボク』へのびる

みちがひろがる

いきつくさきは

明朗ではなく

いりくんだみちは

迷路のよう

くねくねの道のり

ふわふわなキモチ

カラフルな『ボク』が

いきつく先に あらわれては

こころ まどわし

この手 つかんで  
ああ、いったい  
どこにつれてゆくの？

はてなく くなる  
ら びり んす

みぎから

ひだりから

たくさんの『ぼく』の  
声がします

はてなく くなる  
ら びり んす

すすもつか

もどろつか

迷ってしまつて  
本日もぼくは  
あしぶみ あしぶみ……

まがり角から

かおをだすのは

よりみち好きな『ボク』

ぼくの体を  
あっちこっちへ  
つれまわす

風が気まぐれに  
いたずらをする  
とヨウムシな『ボク』

ぼくの足が  
動かないように  
縛りつける

月がつれなく  
そっぽを向くと

ニヒルに笑う『ボク』  
ぼくの瞳を  
イジワルにおおって  
まっくらにする

だけど それなのに

出口へ向かって  
足をひきずって  
歩こうとする『ボク』の

そのまっすぐな背中だけは  
なぜか、遠くに  
かすんでいて

はてなく くなる  
ら びり んす

みぎから

ひだりから

たぐさんの『ボク』に  
ためされて

はてなく くなる  
ら びり んす

いどもつか  
にげようか

迷ってしまつて  
本日もぼくは  
あしぶみ あしぶみ……

めいろはまだまだ  
おわらない

タナトスの鏡

鏡の水面に映るワタシへ  
伸ばした指が  
なぞった頬の  
冷たさは 鋭く  
腕を突き刺し  
肉をえぐり……

その刹那、揺らめいた  
水面の上を  
滑ったものは

歪んだ口元 赤黒い眼

私の知らない  
ワタシの『顔』……

その口元に潜めた牙が  
その手の平にぎらつく爪が  
いつか血を啜り  
朱色に燃ゆる その日を  
待ちわび焦がれた  
ワタシの『顔』

鏡の水面を かきくらすワタシを  
捕まえようと 潜った先は





ヒトミ ヲ 塞グ 黒  
汚 シ た 影 . . . . .  
ヒトミ ヲ 塞グ 黒  
ヒトミ ヲ 塞グ 黒  
ヒトミ ヲ 塞グ 黒

\*まねっこさん\*

あなたは わたしの  
まねっこが  
コワいくらいに うまいから

わたしは あなたに  
たずねたの  
『どうしてわたしの  
マネするの』

そしたら あなたも  
たずねたの  
『どうしてわたしの  
マネするの』

すっかり ぴつたり  
重なって  
ちよつと悔しくなったから

わたしは あなたに  
背をむけて

見えないように してみたの

そしたら あなたも  
背をむけた

怒ったように 背をむけた

ちよっぴり おかしく

思えてきて

こんどはあなたに

手をのばす

そしたら あなたも  
手をのばす

ふたつの手のひら

ごたいめん

しっかり すっかり

合わさった

みぎで と ひだりてを

見つめたら

すこおし へんな

気分なの

あなた と わたしを

みくらべる

とあることに

きづいたよ

ちっぽけだけど

大事なこと

あなたは わたしの  
まねっこが  
コワイくらいに うまいけど

あなたは わたしに  
なれないし  
わたしは あなたに  
なれないの

あなたは わたしの  
影だから  
あなたと わたしは  
ちがうもの

だから わたしの  
外見は  
あなたの それとは  
ちがうもの

あなたと わたしが  
おなじだと  
まちがえそうに  
なっただけど

あなたは わたしの  
まねっこが  
いがいと 下手だと  
わかったよ

だってほら、  
みぎ と ひだりを  
まちがえてる

あなたは とても  
うっかりやさん

あなたは とても  
うっかりやさん

ひかりのひとみ

わたしを包みこむ  
おだやかな温もり  
その調べに身をゆだねると

導くように  
とびらが開いた

わたしに注ぎ込む  
あたたかなひかりが  
鮮やかに色をてらしては

わたしにせかいを  
教えてくれた

時に光は  
痛々しいほど  
大地に影を刻んでは  
歩むべき道を  
わからなくしてしまっけど

真っ暗な中  
つまづいて  
すりむいて  
痛みを知って

それでも  
立ち上って  
歩きだして

その時初めて  
光の優しさをかみしめて  
『ありがとう』を言える  
わたしになる

わたしを見つめる  
やさしげなひとみに  
やわらかく映るものを見て  
わたしはわたしの  
姿を知った

時にひとみは残酷なほど  
愚かなわたしを映すから  
愛したいあなたに  
背を向けそうにもなるけど

迷いの中  
ぶつかって  
傷つけて  
涙にぬれて

それでも  
歩みよって  
支えあって

そうしてやっと  
あなたの温もりを  
だきしめて

『愛してる』の意味が分かるから

いま、

まっすぐに見つめよう

満ちるひかりを  
あなたのひとみを

当たり前に

注がれて

輝いて

そばにあって

それなのに

いつの日か

消えてしまう

そんな もろく

時のまえにゆらぐ

さざめきを

いつの日も忘れてしまわぬように



(後書き)

M e - r r o r - b y r i n t h

M e + M i r r o r + L a b y r i n t h からなる造語。

わかりづらくてすみません……

読みづらくてごめんなさい……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3160y/>

---

鏡

2011年11月17日00時08分発行